

臨床倫理メデイエーション

国立大学法人山形大学医学部
総合医学教育センター

准教授

中西 淑美

49

自然と人との共生にみる利他性

はじめに

2021年2月1日付の世界保健機関(WHO: World Health Organization) SARS-CoV-2ウイルス感染症(COVID-19)の報告では、世界の感染者1億258万4351人、死亡者222万2647人で、加えて英国、南アフリカ、日本、ブラジルから変異種が報告されている。また、この数カ月の動向では、東アジアのなかで、韓国や台湾と比べると、累計死者数や人口数からみて、日本の感染者数が多い。韓国では、この冬の新規感染者数も、すでに先月下旬から減少傾向にある。圧倒的に優れているのは台湾で、いまだに累計死者数は1桁、全感染者合計数が1000人未満である。文化

の違いや自然環境の違いはあるにしてもファクターXならぬ別の何か、つまり、国民との情報の共有と政策に対する理解を十分に得ないままの政治的・政策的な取り組みでの違いがある。本稿では、コロナ禍のある差別と偏見を通して利他と利己について考えてみたい。

1. コロナ禍のある差別と偏見

(1) 保育園での差別報道

約1年前になるが、2020年4月18日のNHKニュース記事を全文引用して紹介する⁽¹⁾。

新型コロナウイルスの患者の治療などに当たっている医療関係者が差別的な対応を受ける

ケースが相次いでいます。看護師などの子どもが保育園から受け入れを拒否されるケースもあり、専門家は「社会全体が正しい知識に基づいて行動すべきだ」と指摘しています。愛知県豊明市の藤田医科大学病院では新型コロナウイルスに感染した患者の治療に当たっていて、今月9日、別の病院から着任したばかりの医師1人の感染確認を公表しました。病院によりますと、ほかの職員に症状はなく感染も確認されていませんが、その後、県内にある認可保育園から、看護師や医師の子どもの受け入れを拒否されたということです。30代の女性看護師は出勤前に子どもを預けに行ったところ、保育園側から「病院に出入りした人の子どもの受け入れができない」と伝えられたと言います。感染した医師との接触がないことなどを説明しましたが対応は変わらず、結局、子どもを預ける場所がなく、当日は仕事を休まざるをえなくなったということです。女性看護師は「病院で働きたい」「人を助けたい」という気持ちでやっているのに、子どもを預けられないことで仕事ができなくなり、悔しさを感じました」と話しています。病院によりますと、ほかにも複数の医師や看護師などの子どもが同じ保育園から受け入れを断ら

れたということです。病院の眞野恵好看護部長は「チームでやっているのでスタッフが1人でも抜けたら医療の質が維持できなくなってしまう。病院としても子どもがいる職員のサポートを強化していきたい」と話しています。今回の対応について保育園は「ほかの子どもへの感染のおそれを考えて、やむをえない措置だった」とし、その後、受け入れを再開したということです。一方、この保育園がある自治体の担当者は「発症者や濃厚接触者を除いて希望する人の子どもは受け入れるよう指導しており、今回の対応は不適切だと考えている」と話しています。

医療関係者への差別的な対応はほかにも相次いでいて、別の医療機関では、親族が介護施設の利用を見合わせるように求められたり、医師などがタクシーから乗車を拒否されたりするケースがあったということです。危機管理や人間の行動心理などに詳しい、千葉大学の神里達博教授は「感染への不安な気持ちも理解できるが正しい知識に基づいて相手の立場に立って行動すべきだ。緊急事態において差別や偏見は社会全体にとって大きなマイナスになる」と話しています（以上、NHKニュース記事より引用）。

このような保育園問題のみならず、感染患者に接する医療者への心無い差別や偏見は相次いで発生した。誰かが悪いということに問題の所在を求めるのは思慮に欠けよう。冒頭に述べたように、問題が起きた時に、人は情報の共有と相互理解のないまま、個人の利益と社会的利益について熟考することなしに、二者択一の選択で意思決定されてしまい、差別や偏見は増長されて大きな問題を引き起こしていくのである。ここで注目すべきは、人を差別したり責め続けたりする風潮や扇動に走る行為の背後にあるバイアスを生む状況の問題なのである。

(2) 感染症の拡大防止と個人の権利との 均衡への倫理的配慮⁽²⁾

昨年、筆者は『感染予防に潜む倫理』と題し数回著述した際、「公的な正当化」についても言及した⁽²⁾。

感染防止は、個々人の感染予防や協力によって初めて、社会全体としての感染症予防が実現する。そのためには、社会的利益（公益）と個人の権利・利益（私益）の双方の均衡をとる必要がある。まずは、社会的利益の追求が不利益な結果として影響を被る諸個人は個人の判断に

おいて、それはどの程度の善であり、徳としての価値として承認できるかを内省することを希求する。このような視点に立った感染防止は、個人にとっても社会にとっても公平に対応していることになるだろう。差別や偏見の背後にある、発生したコンフリクトについて、検討することが必要である。人間は利己と利他のなかで生きている。どちらが正しいかを争うのではなく、異なる立場で行き過ぎた行為でないかを振り返り、相手の立場を否定することなく、まず、不安な気持ちの原因を検討する。

このことは、倫理的配慮につながり、個人の社会に対する責任を意識化し、「公的な正当化」の了解となりうる。つまり、このような関係者との「了解」が社会の利益と個人の利益の均衡を保つことになる。これらは、医療メディエーションによる倫理問題への姿勢である⁽³⁾。

問題は、「情報」をどのように選択し、個人と社会の総意としての意思決定を行うかである。「他者に対して危害を加えない限り、自由にしてよい」という危害原理を前提にし、その人の行為が他者に及ぼす影響について、それを無視した個人の自由の尊重は倫理的には妥当か否かを、個々人は考える必要がある。そして、「不安・恐怖」と

いう心的状態にある個人が、不偏的で妥当な意思決定を行うには何が必要かを考えることである。

功利主義は、これまでの拙稿でも述べてきたように、自然の摂理といった形而上学的な観念に依拠するのではなく、客観的に測定される科学的な利益とそれを基礎にした合理的計算により、各個人が享受する利益の総和を最大化する行為や制度を正しいとする考え方である。

各個人が享受する利益という点に絞れば、個人主義的なりべリズムに共通する部分がある。感染とリスクでは、一人一人が享受する利益を単純に総計するという「総和主義」と、それを

拡大させるような行為・ルール・制度が正しいと考える「最大化主義」という二つの倫理上の大きな問題を功利主義は孕んでいる。つまり、全体の利益を増大させるためには、個々人や少数者の犠牲は厭わないという結論を、功利主義によって導き出される恐れがある。この少数者を排除するような差別や偏見の意識をなくすためには、前述した情報の選択や個人と社会の総意の意思決定のプロセスが非常に重要となる。

(3) 人と自然が共生してきた進化の過程

保育園問題では、感染へのリスクとベネフィット

トにおいて、少数派である新型コロナウイルス感染者治療に従事している医療者の子どもを排除して、感染拡大を防止するという外見を呈している。

これは、全体の利他に対応しているとの装いのように見える。しかし、実は、異質なものの、多種多様な事柄を回避している。つまり、そこには利己性が見え隠れする。

さて、人に、死や特有の症状をもたらすという被害のみが際立つウイルスであるが、それらの遺伝子が、進化に関与しているという興味深い知見がある。

2015年、東京大学大学院農学生命科学研究科の今川和彦らの研究グループは、京都大学ウイルス・再生医科学研究所宮沢孝幸らと一緒に、「バトンパス仮説」哺乳類の胎盤形成に関与する内在性レトロウイルス由来の遺伝子は順次置き換わる」を有名学術誌に発表した³⁾。

この研究では、哺乳類は長い進化の過程で、ウイルス遺伝子を内在化し、その内在性レトロウイルス遺伝子（群）の機能によって胎盤を発達させてきたことを明らかにし、この新しいウイルス遺伝子の獲得によって、さらにその哺乳類の機能や進化に変わりうる可能性を明らかにした。つまり、ウイルスは人との接触によって、被

害ももたらすが、大きな地球環境という自然歴史上で見れば、「利他性」をもつことがわかったのである（進化と倫理については、本年の本誌1月号で著述した「2021年—人間の行動と生命倫理」を参照していただければ幸いである）。

人は、浄化されたところでは生存できない。自然と人が共生するためには、自然との共生が避けられない。人の生命が、栄養と排泄と休息と生命活動で「時間」を営む以上、文明社会における人と自然社会の攻防は繰り返し起こる。

このパンデミック感染そのものも、文明中心になりつつあった地球環境下で、人とは何かについて、利他と利己について思考するように、問いを投げかけているのかもしれない。

2. 研究による利他的思考と

利己的思考の違い

(1) 利他主義と利己主義について

他人の為に、あなたは犠牲を払うことがどこまでできるかという状況や、ボランティアの問題など、あるいは宗教的にも、利己主義や利他主義という言葉が使われる。

周知のように、利他主義は、他人の利益を最

優先にする態度・考え方で、利己主義は、自分の

利益を最優先にする態度・考え方である。利己主義は自分の利益を追求するために他者へ利益を与えることもあるため、利他主義が善で利己

主義が悪ではない。前述したように、利己主義が功利主義ではないことも注意しておく必要がある。

さて、保育園問題では、我が子の感染か、社会の感染か、という問題が、さまざまなコンフリクトやジレンマを生み出し、それらは差別や偏見という問題に代替していき、ひいては人と問題を切り離すことができずに、利己主義として差別意識という悪い面へと直結してしまいがちである。そこで、利己主義に関する興味深い研究を紹介する。

(2) 玉川大学脳科学研究所の研究からー

利己主義者の協力姿勢

2017年に、米科学アカデミー紀要（オンライン版）にある論文が発表された。論文の結論は、「利他主義者は素早く協力し、利己主義者は時間をかけて協力する」ということであつた^④。論文タイトルは、「経済ゲームにおける反応時間は、利他主義者と利己主義者の意思決定における異なるタイプの葛藤を反映する」

である。

本研究は、20代から50代までの男女443名を対象に、協力的行動と意思決定の早さの関連を調査し、以下のことを結論付けた。以下、研究成果からのポイントである^④。

①利己主義者は、時間をかけて意思決定をする
と協力的に振る舞うようになる。

②利他主義者と利己主義者が異なるメカニズムで協力的行動をとる。

③両方のタイプの人々から協力的行動を引き出すには、異なる制度が必要になる可能性を示唆。

④利他主義者は意思決定が早い人ほど協力的に振る舞うのに対して、利己主義者は意思決定に時間がかかる人ほど協力的に振る舞う。

本研究は経済ゲームでの設定ではあるが、行動経済学として人の行動として評価できる。

ところで、保育園問題は、子どもの問題の背後に差別や偏見のみならず、親の意識が背景にある。

子どもを大切な生命として熟慮すれば、利己主義や利他主義についての是非ではない。親の価値観も意識もさまざまであることを尊重し、利己主義も利他主義のいずれでも、協力する姿勢が異なることを理解すれば、誰かが悪いとい

う責任追及ではなく、「何をすれば最善あるいは最良になるのか」という臨床倫理的な検討にならないだろうか。

つまり、反応時間とコンフリクトでの意思決定の関係は、利他的な人と利己的な人で異なるのだから、差別や偏見は個人の育った環境や文化背景・教育でありえることを理解する。そして、差別した人や差別されるような仕事を批判するのではなく、脅威に立ち向かう協力者として何ができるのか、今、そこでの個々の利益と社会の利益を協働で勘案し、均衡していくのである。

特に、今回のCOVID-19のような未知なるウィルスの前においては、死・困窮・先行きへの「不安・恐怖」、という心的状態にある個人が妥当な意思決定を行うには、時間と協力の姿勢が異なることを前提に考えて、反対意見でもお互いに受容して相互理解するための情報交換や交流の場を創出していくことで、差別の連鎖や偏見の予防にはつながると考える。

逆説的であるが、利己主義者は、コンフリクトの際、素早く協力できないが、協力は時間をかけてできるのである。また、素早く行動できる利他主義者を尊重することである。つまり、異なる見解や意見の人と対話しあい、対話のな

かで、意思決定が変化し、協力的行動は構築できる。

3. 現場で差別や偏見を忘れない

まず、意見の食い違いや対立の際は、異なる文化背景や価値観を持つ人々（保護者）と、お互いを尊重する情報交換の場を持つことが挙げられる。

次に、主張の強い者や管理者にも、周囲の状況や全体の問題と個々の問題を切り離さないように相互理解して、問題は何かを協力して発見することである。さらに、問題や課題が発見されたら、それを拡大させるような行為やルール、制度などがないか、検討し、個々の利益とリスク、社会の利益とリスク管理について、さらに話し合うことである。対話すればするほど、個人の見解に基づく正義論の闘いになりやすく、ネガティブなことや納得できないことも出てくるだろう。しかし、そんなときこそ、人ではなく、何が問題であるかを発見し、そのことについて、歴史や社会の仕組みを学ぶことを試みよう。

か、検討することである。

大人も子どももなく、全員が、パンデミック感染で苦しんでいる被害者であるという共通の認識に立ち、お互いをいたわることが先決である。対立は対立として受け止め、何が人として大切なことなのかを教える契機になる。

子どもは、親の実際の行動から学ぶことがある。大人として、自身の内に根付く偏見や差別意識に気付き、立場を超えて、異なる価値観や文化を持つ人やグループに対し、見下したり思い込みで決めつけたりすることを避け、尊重する言動を心がけるのである。

また、自然と人が共生するための考え方の一つとして、アマルティア・センの正義論がある⁶⁾。

センの正義論とは、福祉的自由の権利に関する公正基準を明示し、価値の多元性と人間の多様性を重視する。この理論は、厚生主義を超えた「価値の多元性」と言われ、センは特定の規範を明確にせず、現場での差別や偏見に対する対応を説く。法的正義の権利論ではなく、価値観や思想に基づいた「権利性」の考察を重視した「正義」である。

倫理は脳がつくる、つまり、人間の脳は、生存と幸せを価値づけるように組織されて機能し

ている⁶⁾。生存と幸せが価値あるものにつながり、利己主義や利他主義を形成している。

われわれの知覚、脳は価値判断し、経験と文化的実践に基づいて倫理的思考を形成していると考ええる。

パンデミック感染の状況下では、何より、人を責めることではなく、異なる意見や価値正義を超えて、発生した事象に対して、受容と協働を試みることである。そして、そこには対立を前提とした分断を避け、相互の価値意識を尊重する対話過程が必須である。

人とは何か、自然と文明とのあり方の最適解を求めて、新しい社会はどうあることがよいのか、対立から生み出される新たな正義もある。歴史的にみれば、文明国家が発展するには、弱者に対する姿勢や行為のあり方が出発点となり、社会が整えられていく。

感染への差別や偏見の克服は、倫理的には利他性について、今、ここで思考し、実践行為の過程で協力し合うことである。

おわりに

感染状況は予断を許さない。特に医療現場で



は大変な状況が続いている。このような状況にあって、功利主義、善悪、最善、利他主義、利己主義、価値観、倫理、対話の場、情報共有の意味について考えてみるのは意義のあることであらう。

人のDNAの一部にウイルスの遺伝子が入り込み、大きな役目を担っていることを考えると、コロナ禍という自然が人にもたらす災いは、人類に何か大きなメッセージを伝えようとしているのかもしれない。

文

文献

- (1) NHKニュース記事2020年4月18日5時19分配信より(アクセス2021年2月1日)
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200418/k10012393931000.html>
- (2) 中西淑美「臨床倫理メディエーション」(40) 感染と倫理『文化連情報』2020年4月号、Vol.505、58—62頁
- (3) Klimakawa, S. Nakagawa and T. Miyazawa: Baton pass hypothesis: Successive incorporation of unconserved endogenous retroviral genes for placenta during mammalian evolution, *Genes to Cells* (2015) 20, 771—788.
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/gtc.12278>
(アクセス2021年2月1日)
- (4) https://www.tamagawa.jp/research/brain/news/detail_12320.html
(アクセス2021年2月2日掲載論文は以下)
T. Yamagishi, Yoshie Matsumoto, +4 authors M. Sakagami: Response time in economic games reflects different types of decision conflict for prosocial and proself individuals, *Published 2017, Psychology, Medicine Proceedings of the National Academy of Sciences*
- (5) 柴田謙治: アマルティア・センの正義論—潜在能力の平等と共感、公共的推論、『金城学院大学論集』社会科学編第12巻第1号 2015年9月、1—21頁
- (6) バトリシア・S. チャーランド著、信原幸弘・榎 則章・植原 亮訳: 『脳がつくる倫理—科学と哲学から道徳の起源にせまる』、化学同人、2013、総頁338頁

表紙写真募集

- ①題材……地元の風景、行事、名所・旧跡、旅先での発見、山に登ったとか海に潜ったとか川を下ったなどの記録、身近な自然や人物、日常生活、その他、何でも結構です。応募点数も何点でも構いません。
- ②体裁……印刷サイズは、12cm×17cm程度になります。カラー、白黒、プリント、スライド(リバーサルフィルム、マウントしてあってもなくても可)、デジタル画像(必ずデータをEメールやCD-R等でお送りください)等。
- ③採用になりましたら、ご連絡いたしますので、その時点でタイトルと200字程度の写真説明文をお願いします。
デジタルデータ以外のプリントやフィルム等は、返却いたします。